

しが学校支援センター
「地域の力を学校へ」推進事業の実践校（2020年度実施分）



メニュー番号	17101
メニュー名	がん教育 「自分とみんなの命をまもるために」
校名(学年)	東近江市立五個荘中学校(第2学年;94名)
講師等	市立長浜病院 伏木雅人医師 「よりよいがん医療をめざす近江の会」 荒居きよみ氏
学習名	がんに関する正しい知識理解を深め、健康と命の大切さについて考える。
教科等	保健体育科 保健分野
実施日	令和3年 3月 2日 (水)

《 授業 》

連携授業は、外部講師を招き実施した「がんの予防」に関する学習でした。

授業の前半は、市立長浜病院副院長伏木雅人医師によるがんという病気と治療法等の現状についてのお話。後半は、がん治療経験者荒居きよみ氏からの体験談でした。

前半の伏木医師のお話は、アニメ動画を小刻みに配しながら、次の内容を話されました。

○がん患者数の現状 ○がんと食生活 ○がんと生活習慣 ○がん検診の現状と定期的な受診の必要性 ○早期発見と治癒率 ○がん検査と治療法の種類 ○緩和ケアの現状

また、まとめの段階では、がんという病気を遠ざけるためには「5つの健康習慣」(禁煙・減塩や熱い食べ物を口にしない食生活・適度な運動・適正体重の維持・節酒)を身に着けることが大切である。5つの内2つ以上の習慣を守ることにより、がんになる確率を軽減できると話されました。そして、生徒の皆さんに今できることとして、次の3点を訴えられました。

- (1) 今日の話が家族などにも伝えることで「自分と周りの人の命を守ること」ができる。
- (2) 5つの健康習慣を意識して生活していくことで、「今日から、今から、自分を守ること」ができる。
- (3) 近隣の医療施設や市役所・保健所などが発する情報に関心を持ち、それらと繋がろうとすることにより、がんの予防と最新の治療法等がわかり、正しい認識ができる。

後半の荒居きよみ氏の講話は、自らのがん治療体験を紹介する内容でした。親友ががんで亡くなられたことを契機に、勇気をもってがん検診を受けられたところ、卵管がんであることが発覚。家族とも相談して子宮切除の手術を受けられたが、その後リンパ節への転移が発覚。2度目の告知を受け、自らの生命に大きな不安を抱えられた。しかし、手術と抗がん剤治療と分子標的治療薬治療の結果、がんを克服し今日に至っておられる。

自らがんと闘病を振り返り、「家族はもとより、信頼できる医師との出会い、看護師さんの寄り添い、恩師からの手紙、友人や職場の人たちの支えがあったからこそ、いま私はここにいるのだと感じています。」とお孫さんの存在も含め、周りの人の支えに助けられたことを話されていました。

そして、自らの経験を踏まえ生徒たちに伝えたいこととして、次の3点を話されました。

「がんは他人事ではない病気であることを知ってください。」

「ぜひ、両親、祖父母、身近な人に検診を勧めて下さい。今や「がん＝死の病」ではなく、治る病気です。」

「家族や仲間、人との出会いを大切にしていってください。」

お話の最後に、今取り組んでいることとして、ヘアドネーション(病気や闘病の過程で髪を失った人達に、自らの髪の毛を医療用のかつらづくりに寄付する活動)、がん患者サロンでの



ピアサポート活動、がん教育の外部講師などを行っていることを紹介され、改めてがん検診受診の啓発をされ話を終わられました。

今回の授業の特徴としては、医師の単独講話ではなく、がん治療体験者が話されたことにより、生徒たちも「がんの予防」をより切実な問題に感じ、その必要性を強く感じていました。

《感想》

児童・生徒

- ◇がんは死に直結すると思っていたので、間違った認識だったんだなと感じました。早くがんを見つけることができたなら、まず治ると聞いて安心しました。がんになった方の話を聞いて、早く見つけることが大切だと感じました。また、信頼できる医師と出会うことも大事なんだなと思いました。家に帰ったら、家族に検診の話をしようと思いました。
- ◇今日、がんについての話を聞いて、今まで知らなかったことをたくさん知ることができました。そして将来どのように過ごしていくと良いのか考えることができました。がんの予防は、身近な事からできるので、やっていこうと思いました。予防に努めることの大切さ、検診を受けることの大切さを改めて知りました。
- ◇がんになる人が2人に1人ということが、とてもびっくりしました。祖母は実際にごんになったけれど、治療を受けて今も元気に生活できているので、治療の技術とかがんに対する考え方などすごさを改めて知れてよかったです。
- ◇がんは今まで「怖い」とか「絶対に治らない」とかそういったイメージを持っていたけど、早期発見をすれば希望が見えることも知った。大人になったら検診をしっかり受けたいと思った。また、ヘアードネーションを行ってみたい、人を救いたいと思った。
- ◇荒居さんの体験の話が心に刺さった。経験したからこそ、分かったことや伝えたいことなどがとても印象に残っている。20才になったら検査を受けようと思った。早期発見ができ、治療できる技術があるのを知り、健康でも定期検査を大人になってから受けようと思った。

学 校

- ・しが学校支援センターへ依頼したところ、手早く講師と連絡をとってくださり、その後スムーズに講演会の計画を進めることができました。
- ・講師の先生と事前打ち合わせを行う中で、がん経験者の方のお話を提案していただき、大変充実した講演会となりました。
- ・DVDも交え、テンポ良く大変わかりやすい内容でした。